

## ポイント・ピクチャーズ

次代を担う、新進気鋭のアニメーションスタジオ。  
デジタル作画の活用が  
ハイクオリティな映像制作への近道。

### ポイント・ピクチャーズ

『NARUTO 疾風伝』をはじめ、『プリンセス・プリンシパル』『幼女戦記』など数々の人気アニメのオープニング/エンディング映像を手掛け、業界内外から注目を集めているポイント・ピクチャーズ。創業17年目を迎える同社は、企業PVのCG映像からスタートし、遊技機のムービー制作をきっかけにゲームやアニメといったエンターテインメントの世界に進出。数多くの有名タイトルの映像制作を手掛けてきました。

総勢30名のスタッフは、CGクリエイター、アニメーター、デザイナー、制作管理の4部隊からなり、全員が一つのフロアに机を並べています。

<http://www.point-p.jp>

### デジタル作画の普及を見越し 積極的に液晶ペンタブレットを導入

同社では、以前からCG制作スタッフを中心にペンタブレットなどのデジタルツールを活用してきましたが、2013年頃から2Dアニメーション制作におけるデジタル作画の普及を見越して液晶ペンタブレットを導入。アニメーターにも積極的に液晶ペンタブレットの使用を薦めてきました。

アニメーターの菅井 翔さんは、同社に入社するまでデジタル作画の経験がほとんどなく、ペンタブレットにも不慣れでしたが、現在では、CLIP STUDIO PAINTを使用して、すべての工程をデジタルで完結させています。

「紙と鉛筆に慣れていたので、動画はまだ少し紙のほうが速いですが、設定デザインやイラストなどの仕事では、デジタルの方が圧倒的に便利です」

案件によってはアナログでの作業が必要になるため、菅井さんの作業環境は、伝統的なライトボックス付き作画機にCintiq 22HDがモニターアームで取り付けられており、アナログとデジタルをスムーズに切り替えられるようになっています。

### 紙と鉛筆で身に着けたスキルをデジタルで発揮 可能性広げるMobileStudio Pro 16

最近、会社から新しいMobileStudio Pro 16を支給された菅井さんは、その使用感に大きな可能性を感じたと言います。

「ペン先と表示面の距離感がなく、より自然に感じました。画面サイズもアニメの原画用紙に近いのがいいです。これまでデジタル作画では少し拡大しないと思い通りの線が描けなかったのが、画面解像度が高く、線の強弱もすぐ繊細に拾ってくれるので、紙と同じ感覚で描けるんです」



16インチ4KディスプレイのMobileStudio Proと、8192レベルの筆圧感知機能を持つWacom Pro Pen 2が、紙と鉛筆で身に着けたアニメーターとしてのスキルを、デジタル作画環境でも変わりなく発揮する上で、大きな助けになっています。

## 密度の高い作品や3DCGとの融合に 有効なデジタル作画

「最近では劇場作品でなくても密度の高い絵が求められるため、必要に応じて大判作画や拡大作画をすることがありますが、デジタル作画ならわざわざ拡大したり、紙の取り回しに苦労することはありません」

高橋 真ラインプロデューサーは、HDから4Kへと解像度が上がっている最近の制作上の課題にも液晶ペンタブレットを使ったデジタル作画が有効と考えます。

「大勢のキャラクターが複雑に動くようなカットを描くときに、紙だと4枚も重ねると下の絵が見えなくなってしまうのですが、デジタル作画なら何枚重ねても大丈夫」

要求されるクオリティに応える上でも、デジタル作画の導入は必然の選択と言えそうです。また、デジタル化の恩恵を受けるのは、作画スタッフだけに留まりません。

「3DCGと作画を組む場合に、以前はCGをプリントアウトしたものに合わせてアニメーターが作画する必要がありました。デジタル作画を導入してからは、レイヤーにCGを読み込んで重ねるだけでレイアウトを確認できるので、印刷の手間もかかりません。」

社内での完成したカットの受け渡しや、ちょっとした打ち合わせなどもメッセージング上で行えるため、社内のコミュニケーションも迅速になったと言います。

「アニメーターに設定画などの作画資料を配るのも、紙でやるよりデジタルのほうが圧倒的に楽ですね。外注のスタッフはデジタル作画を導入していないことが多く、カットの受け渡しなどまだまだ紙に頼る場面が少なくありませんが、できることからやっていければ」と、制作進行の清水雄大さんは、デジタル化に大きな期待を寄せています。

## 強みを伸ばすためさらにデジタル化を推進

同社がアニメ業界で存在感を示すようになったのには、最近のテレビアニメのクオリティ向上傾向が背景にあると、清水さんは分析します。

「制作会社が本編の制作だけで手一杯になり、オープニング/エンディング映像が負担になっている状況があります」

本編の制作に関わっていないスタッフが、作品の顔となるオープニング/エンディング映像を制作するには、短期間で作品を把握する瞬発力と

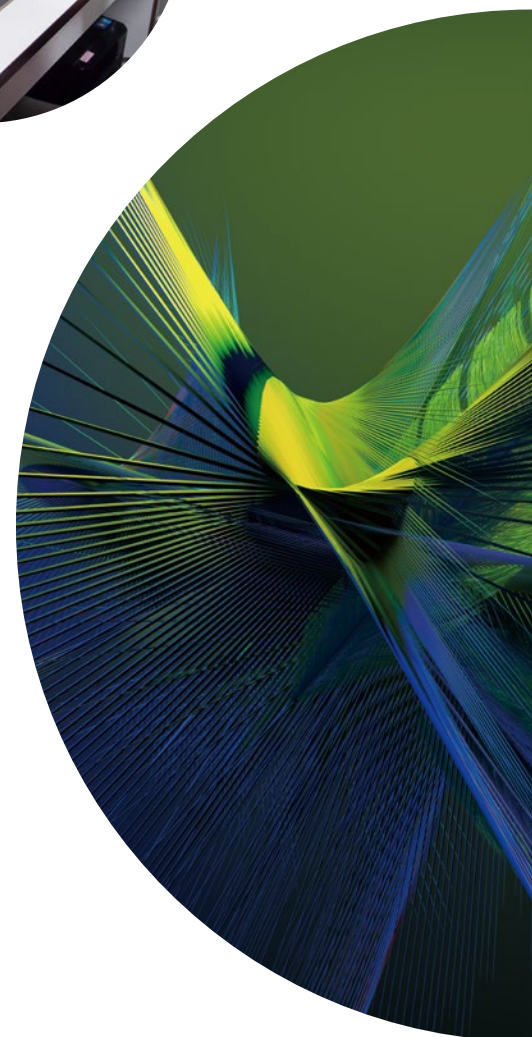
高い適応力が必要ですが、同社にはそれを可能にするフットワークがあると取締役の目黒久美子さんは語ります。

「作画監督レベルの優秀なアニメーターや、高い演出力を持つCGクリエイターが社内において、演出から撮影までほぼすべて自社で完結することができる体制が当社の強みです」

目黒さんは、自社の強みをより伸ばしていくために、将来的には作画から制作管理まですべての工程をデジタル化したいと考えています。

「液晶ペンタブレットや作画ツールなど、新しい技術が次々と出てきます。スタッフには興味を持ったものをどんどん試してもらいたいですね。必要なものは会社としても積極的に導入していきたいと考えています」

ゆくゆくは自社のオリジナル企画を手掛けたいというポイント・ピクチャーズ。軽やかなフットワークが、その夢を実現していくに違いありません。



資料請求、ならびに製品に関するお問い合わせは、こちら

<https://tablet.wacom.co.jp/biz-design/inquiry/>

株式会社ワコム

〒160-6131 東京都新宿区西新宿8丁目17番1号 住友不動産新宿グランドタワー31階

電話でのお問い合わせ/資料請求は ☎ 0120-056-814 / Tel.03-5337-6704 受付時間 9:00~12:00/13:00~18:00 (土・日・祝日を除く)

© 2017 Wacom Co., Ltd. All rights reserved.